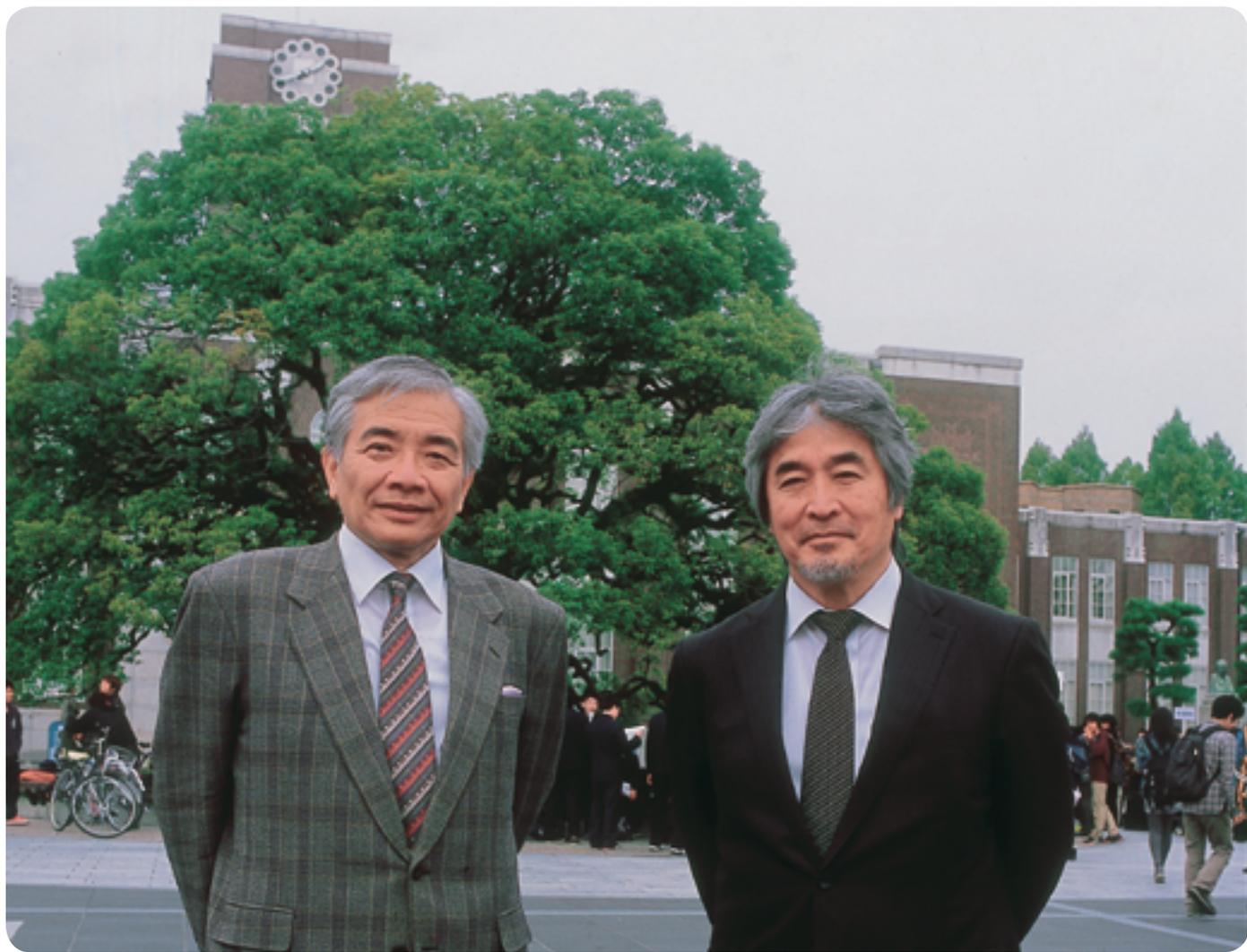


CO・OP

京都の生協

2016/January/No. 88
京都府生活協同組合連合会



人は、ひとりでは生きることができない。「たすけあい」が人間の本質
——競争と優劣重視の社会ではなく、勝ち負けのない平等な社会へ——

TalkTalk トークとーく

●京 都 大 学 総 長 やま山 きわ極 じゅ壽 いち一さん
●京都府生活協同組合連合会 会長理事 かみ上 かけ掛 とし利 ひろ博

対談

TalkTalk トークとーく

人は、ひとりでは生きることができない。
「たすけあい」が人間の本质

——競争と優劣重視の社会ではなく、勝ち負けのない平等な社会へ——

京 都 大 学 総 長 山 極 壽 一 さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授) 上 掛 利 博

人は、仲間と一緒に食べたり、遊んだり、速に「サル化」しつつあると、霊長類学
子育てしたり、ケンカをしたり、仲直り 者の山極さんは警鐘を鳴らします。人間
したりしながら、信頼関係を結び、社会 の本質とは何か、人間の社会はどうある
を維持・発展させてきました。それはま べきなのか——。あらためて考えてみま
さにゴリラ型社会。いま、人の社会は急 した。

人として最も大切な能力は「共感力」

上掛 山極さんは、ゴリラ 社会』（2014年、集英 社）は、ゴリラとサルと人間

を研究対象にして、その視点 の対比で現代社会の問題点が 鋭く指摘されていて、うなず くところがたくさんありまし た。

山極 この本を書いたのは、 情報通信技術の発達によって、 人間が人としていちばん大切 な能力である「共感能力」を だんだん使わなくなり、競争 と効率優先の社会に向かい

つあるのではないかと、という 懸念があったからです。 共感能力とは、他者の気持 ちを理解する力のことですが、 サルは、類人猿や人間に比べ ると共感能力が低いので、相 手の気持ちとは関係なく、ひ たすらルールにもとづいて行 動します。でも、類人猿や人 間は、その場の状況に応じた り、相手の気持ちをくみとり ながら行動する。食物の分配

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

人は、ひとりでは生きることができない。	
「たすけあい」が人間の本质	2
食のリスクコミュニケーション	
食品中の放射性物質の安心・安全について	7
第1回きょうと食の安心・安全意見交換会	7
京ブランド認定食品（京都吟味百撰）試食会	8
京丹後琴引浜親子で磯遊び体験ツアーを開催	8
京都府総合防災訓練	9
東日本集中豪雨への対応	9
MCA無線（防災無線）訓練を実施	9

2015年度京都消費者問題セミナー

「『食べもの情報』ウソ・ホント」開催	10
2015年度京都労協協の社会的貢献活動	10
豊かな海は森が育む！	
「浦島エコローの森づくり」育樹活動	11
京都府協同組合職員体験・交流学校開催	11

TOPICS

●第27回近畿地区生協・行政合同会議	12
●京都府府民生活部との懇談会	12
●京都府 生協 理事長懇談会	12
●京都の生協活動功労者表彰式	12

●京都府生協連監事研修会	13
●産直シンポジウム	13
●第2回環境エネルギー部会	13
●第1回地域支援事業推進チーム会議	13
●第46回京都消費者大会	
「COP21を前に地球温暖化問題をくらしの 視点でとらえる」開催	13
京都府生協連 第17回	
「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	14
おもな行事のお知らせ	14
事務所移転のお知らせ	14
年賀状	14



京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授)
上掛利博



京都大学 総長
山極壽一さん

ルールと効率優先の社会は閉鎖的になる

がそのいい例で、サルは強いものから先に食べ始めますが、類人猿であるゴリラやチンパンジーは体の大きなものや年長者が体の弱いほうに分配します。そうすることによって特別な関係や新しい関係がつかれたり、自分が困ったときに助けられたりするかもしれ

れないという感情が働くからです。さらに人間は、類人猿とも違って、相手から要求もされないのに食物を携えて行って、わざわざ分配をして、その場で一緒に食べるんですね。人間やサルや類人猿は、肉食動物と違って、毎日食べなければ

なりません。その食べ物を、人間は仲間と分け合うことによって、いろいろな感情を共有し、信頼関係を築いてきたのに、最近は、分かち合い、共有し、共感する能力を失いつつあるのではないか。そのことをわたしはとても心配しています。

上掛 人間社会が「サル化」するというのは、たとえば、どういう点ですか？

山極 電車に優先席が設けられていますがね。昔はお年寄りや妊娠中の女性や体の不自由な人を見れば、優先席がなくても席を譲るのが当たり前でした。いまは、「優先席があるんだから、そっちに行けばいい」とか「子ども連れで満員電車に乗るなんて迷惑だ」という風潮が強まっています。つまり、ルールが最優先で、相手の事情や能力をくみとって、相手のために何かしたいという気持ちはない。それが「ルール化」する社会であり、人間が「サル化」するということです。

わたしは、人間の人間たるゆえんは「家族」にあると思っています。家族は、自分のために相手がいるとは思わないし、相手のために無償で動きます。そういうなかで育って、一緒に食べたり遊んだりするうちに信頼関係をつくり、そういう信頼関係が人間の社会を保ってきたわけです。

つまり、食事や遊びは、非生産的で、非効率的で、むだなことに見えるけれども、共感能力を培ううえでとても大事だし、共感能力がなければ信頼関係をつむぐことはできません。ところが、「サル化」すると、ルールさえ守れば、あとは利益重視だから、

効率が重要視され、人びとは「個人の利益を高めるために仲間や社会やコミュニティがあるんだ」と誤解しはじめ。そうすると、自分の利益を高めたくない者を敵として集団から追い出したり、

集団の外に在る人と敵対したりして、どんどん閉鎖的な集団になっていく。いま、そういう社会に向かって走りだしているのではないかという気がします。



音楽は「共同の子育て」から生まれた

上掛 人間だけが「家族」と「共同体」という2つの関係を両立させてきた、と書かれていますね。

山極 人間の祖先は、直立二足歩行をしていたと思われませんが、二足歩行は敏捷性にも速力にも劣るので、肉食動物の格好の餌食になり、とくに幼児の死亡率が上がります。そこで人類は、多産という能力を身につけて、短期間に何

度も子どもを産み、子孫を絶やさないようにしました。

母親が次々に子どもを産むと、母親だけでは育てられないので、家族以外の人も子守歌を歌うなど育児に参加するようになります。つまり、「共同の子育て」が始まって、子どもは特定の親の持ち物ではなく、みんなのものになった。そこから人間の社会性がめばえたのではないかと思えます。

上掛 子守歌の抑揚は世界中ほぼ共通しているとありましたが、それは「共同の子育て」と関係していますか？

山極 ゴリラやチンパンジーのように母親だけが子育てをする場合は、子どもは抱かれていれば安心できるので泣きませんでしたが、人類になって多産で数多くの子どもが生まれ、いろいろな人が保育に参加するようになると、赤ん坊をあやす必要が出てきます。そのときに子守歌が生まれたのではないかと思われるのです。

なぜなら、子どもは絶対音

感を持って生まれるからです。赤ん坊は、言葉の意味などわかりませんから、おとなのあやし言葉や子守歌を「音の連なり」として聴いています。子守歌やあやし言葉が、高音

食をともにするいのちの意味

上掛 人間社会の「サル化」という変化に気づかれたのは、いつごろですか。

山極 90年代末の、ちょうどインターネットが普及し始めたころです。インターネットや携帯電話は情報提供の可能性を拡大しますが、それが個人の社会関係を貧困にしているのかもしれないですね。IT社会に効用があるとすれば、それは唯一、ネットワーク型社会だからボスや中心や階層をつくらないという点です。そういうIT的なつながりを入り口として利用しつつ、フェイス・トゥ・フェイスの関係につなげていくことが大切だと思います。

上掛 なるほど。山極さん

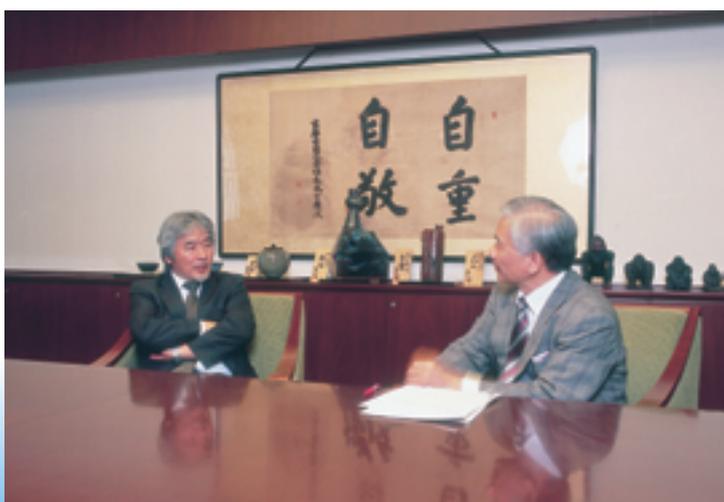
で、ゆったりとしていて、繰り返しが多用されるのは、それが赤ん坊の耳に心地よく、安心感を与えるからです。

このように、歌を使って同調したり、心を共有したりするコミュニケーションが、やがておとなの間にも普及して、人びとは音楽的コミュニケーション

は「家族」の定義は「食をともにするものたち」であると書かれています。私が暮らし

たノルウェーでは、家族みんながそろって夕食をとって、家族を形成するうえで「食事をともにすること」の大切さを実感しました。

山極 サルは、同じ群れでも、なるべく離れて食べるんですよ。なぜなら、食べ物ケンカの源泉だから、ケンカが起らないようにしようという気がかっているわけです。でも、人間の家族は逆で、ともに食卓を囲んで食べます。本来ならケンカの源泉のような食べ物を前にして、みんなが集まって食べるのは、お互いに親和的な関係にあることを



ションによって一体化し、人間に特有の社会性を身につけたのではないのでしょうか。それはおそらく言葉が出現する以前のことだったでしょう。その結果として、われわれはゴリラやチンパンジーにはない複雑な社会をつくれるようになったのだと思います。

了解し合っているからです。あまりにも日常的なことなので忘れがちですが、これほど重要なことです。

上掛 日本では、子どもた

ちも含めて、一人で食べる「個食」が広まっています。

山極 それはわたしも危惧するところですが、むしろ一緒に食べる経験を子どもものからたくさん積むべきだと思います。子どもは、ケンカのもとになる食物を使っ

て、相手と交渉したり、仲良くなったりすることを覚えていきます。最も原始的にして最も重要な社会性をそこで育むのです。コンビニや電子レンジはいつでも効率よく食べることができるかもしれませんが、実は社会的能力を育む機会を

奪っている。一緒に料理をしたり、一緒に食べたり、一緒に片づけたり、一緒に遊んだり、それはむだで人間ひまのかかることだけど、人間にとって非常に大事だと思います。

「勝つ」「負けない」ことが大事

上掛 わたしは府立大で福祉を教えています。学生たちは他の人のために何かをしたいと願っています。他方で、対人関係に不器用になってきている面もあるので、励ましたいと思うのですが…。

山極 昔の学生は年中ケンカをしていて、相手を罵倒しつつ、でも相手の気分をちょっと押し量りながら、最後は和解する…というような調子でした。つまり、逆説的なよう

ですが、もともと仲良くなるためにはケンカをしないとだめだし、相手とのダイアログ（対論）も大切なんです。でも、いまの学生は、相手とぶつかることがこわくて、仲良くもなれない。そういう状況に置かれているような気がし

ます。そのうえ、いまの学生は、自己実現を非常に強く求められ、その裏返しで自己責任が問われて、「自分はこの競争社会で勝ち抜いて、人にはできない目標を達成しなければいけない。それが自己実現だ」と誤解し、何か失敗すると「あなたの責任でしょ」と言われて、立ち直れないほどになってしまふ。

でも、人生はいくらでもやり直しがききます。しかも、人間は他人によりかかり合いながら生きていくしかないのだから、そんなに「自己実現」にしがみついて、自分だけが高みに上がるなどということは考えなくてもいい。むしろ、人びとと協力し合いな

がら、一緒に何らかの目標を持つて、実現していくことが求められているし、そのほうが楽しいですよ。ちなみに、サルは勝敗をつけることで秩序を保っています。ゴリラは「勝つ論理」ではなく「負けない論理」で秩序を保っています。勝つためには相手を押しつけ、屈伏させなければいけない。そうすると相手は離れていき、孤独になってしまふ。でも、負けないというのは、相手と同等の立場に立つことだから、相手を押しつけたり屈伏させなくてもいい。だから、ゴリラのケンカには必ず仲裁者が入り、ケンカをしていた両者もそれを歓迎します。

人間も、もともとゴリラ型の社会だったのでないでしようか。というのは、人間の子どもの負けず嫌いです。負けたくないけど、勝つてしまふと孤独になる。そのことを子どもは本能的に知っているから勝たなければならないけど、おとなから「勝て、勝て」と言われるから、つい勝つてしまふ。その葛藤に子どもたちはけっこう苦労していると思います。

現代社会もまた、勝つことを求めます。そのほうが、仲裁者は不要だし、効率的で、機能的で、経済的だから。でも、信頼感は、勝ち負けでは醸成できない。むしろ、時間をかけて、お互いが努力をして、譲ったり譲られたりするなかで、対等で平等な関係を構築していきます。それが「負けない」という思想であって、この発想を前面に出して社会なり組織なりをつくらないのだめだと思えます。

を求めます。そのほうが、仲裁者は不要だし、効率的で、機能的で、経済的だから。でも、信頼感は、勝ち負けでは醸成できない。むしろ、時間をかけて、お互いが努力をして、譲ったり譲られたりするなかで、対等で平等な関係を構築していきます。それが「負けない」という思想であって、この発想を前面に出して社会なり組織なりをつくらないのだめだと思えます。



山極 ゴリラはケンカを仲裁するとき、相手の目をのぞきこむんです。どれぐらいまで近づくのですか？

上掛 これぐらい(笑)。おそらく、そうすることで相手と一体になることをめざしている。こうして仲間ののぞきこまれると、それまでケンカをしていたゴリラはふっと力が抜けたようになって、落ち着くんです。

すべての人に開かれた大学へ —教育にもっとお金を！

上掛 京都大学は日本の大
学政策に大きな影響を与える
存在です。総長として、大学
の役割について、どのように
お考えですか？

山極 世界のどの地域にお
いても、大学への進学率が向
上し、大学が大衆化して、
世界中の大学が「大学とは何
か。高等教育は何のためにあ
るのか」ということを考えは
じめています。

その意味では、わたしは
ずっと発展途上で仕事をし

てきましたから、学問に対す
るアクセスの平等性がとても
大切だと思います。いまはM
OOC^(※)のようなオープン
ウェアを使えば、発展途上国
の若くて貧しい学生たちでも
高等教育を受けることが可能
になりつつあって、高い授業
料を払って入学しなければ高
等教育にアクセスできないと
いう時代は終わりを告げてい
ます。科学の最先端の情報を
市民と共有しようとする
「オープンサイエンス」も、

の諸君と話し合って、「京大
×聖護院八つ橋」「京大野
帳」「ゴリラ・フロマージュ」
という3つの総長グッズの開
発に関わりましたが、いまの
学生は昔よりも奇想天外な発
想力を持っているということ
を強く感じました。それを実
現させてあげられるような環
境をつくれなれないかと思いま
すね。

上掛 協同組合は、組合員
を中心に多様な利害関係者が、
対等で平等な関係を基礎に助
け合う組織です。京都大学と
京都大学生協は「相互協力協
定」を結ばれていますが、協
同組合や大学生協にどんなこ
とを期待されますか？

山極 大学生協は、やはり
学生が主人公だと思います。
わたしも、生協の学生委員会

学生にとって「カッコいい」 楽しい「世界をつくる生協へ」

高等教育にアクセスする機会
の均等を世界中で実現しよう
という動きのあらわれです。か
ら、日本ももっとどんどん開
いていかなければいけないと、
最近強く思うようになりました。

上掛 それは「学問の自
由」の内実が問われることで
もあると思います。他方で、
大学にもこのところ経営効率
化の波が押し寄せています。

山極 わたしは、教育には
もっとお金をかけるべきだと
思っています。というのは、
学生たちに自由に教育や学習
の現場を動いてほしいし、そ
うして得た学びがとても大事

とかく生協は古くさいイ
メージがありますが、こうし
た学生の発想力を活かして、
デザイン性豊かな、「カッコ
いいな」「楽しいな」と見え
るような世界をつくってほし
いと思います。

それと、そうやって開発し
たグッズの売り場も、学内に
限るのではなく、京大なら動
物園、府立大学なら植物園な
どに設けたら、大学への理解
や関心を一般の人たちにも深
めてもらう機会になるのでは

だと思うからです。たとえば
京大の学生が国公私立の枠を
超えて他の大学をどんどん
回っていい。その意味での大
学間連携はもっと行うべきだ
し、それをきちんと支えるだ
けの基盤的経費は政府が保障
すべきだ。そうしないと、大
学は存続できない。そこがい
ま、われわれがいちばん要請
しているところです。

幅広い世代の方々の学び直
しの場として利用していただ
くことも、これからの大学に
は必要だと思いますね。若者
のための大学ではなく、すべ
ての人に開かれた大学であら
ねばならないと思っています。

ないでしょうか。これはいま
の時代にとっても必要なことだ
と思います。

上掛 なるほど。社会が大
きな岐路に立ち、知的拠点と
しての大学の存在意義が増し
ているいま、大学で生協が果
たす役割も大きくなってきて
います。きょうは、人間以外
の生き物の視点からわたした
ちの社会を考えると、ありがた
うございました。

(写真撮影・有田知行)

プロフィール 山極 壽一(やまぎわ じゅいち)

- 京都大学総長 ● 専門：人類学・霊長類学 ● 1952年東京都生まれ ● 理学博士
- 京都大学理学部卒業、同大学院理学研究科博士後期課程研究指導認定退学。
- 日本学術振興会奨励研究員、京都大学研修員、(財)日本モンキーセンター・リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手を経て、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授。2011～12年度は大学院理学研究科長・理学部長を務めた。2014年10月1日より現職。
- 著書に『京大式おもしろ勉強法』(2015年、朝日新書)、『サル化』する人間社会』(2014年、集英社インターナショナル)、『家族進化論』(2012年、東京大学出版会)、『15歳の寺子屋 ゴリラは語る』(2012年、講談社)、『暴力はどこからきたのか』(2007年、NHKブックス)、『ゴリラ』(2005年、東京大学出版会)など多数。
- 日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長を歴任
- 日本アフリカ学会理事、中央環境審議会委員、日本学術会議会員、国立大学協会副会長
- アフリカ各地でゴリラの行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。



※MOOC
“Massive Open Online Courses”の略。ウェブサイトで公開され、世界中の人が受講できる大規模講義。受講料は基本的に無料。

リスク
コミュニケーション
の
コ
ー
ス

共催：消費者庁・京都府・京都生協・京都府生協連
食品中の放射性物質の安心・安全について
「ふくしまの今を語る人」を迎えて

福島県の生産者を迎え、放射性物質低減のための取組みや生産者の思いを説明・紹介し、放射性物質について正しい知識をえるとともに、福島県との交流を図ることを目的に、福島県が実施している「ふくしまの今を語る人」派遣事業を活用して府内2ヶ所で開催しました。

2015年10月28日(水)、文化パルク城陽で102人が参加して開催。京都府農林水産部食の安心・安全推進課・奥野裕史理事が開会のあいさつ、生産者の土っこ田島farm・湯田浩和さんが「震災と同時にスタートした農産物加工」と題して講演をおこないました。



土っこ田島 farm・湯田浩和さん

消費者庁消費者安全課・企画官・金田直樹氏が「食品中の放射性物質の評価と管理の現状」について報告しました。りんごジュースとトマトジャムを試食して意見交換をおこないました。参加者からは「実験にもとづくお話だったのでとても良く伝わってきた」「日ごろは与えられる情報を一方通行で理解してきたが、生の声を聞くことができ感謝」などの感想がありました。京都生協・川村幸子副理事長(京都府生協連理事)が閉会のあいさつをおこないました。



京都生協・川村幸子副理事長

10月30日(金)には、市民交流プラザふくちやまで86人が参加して開催しました。福



ジェイラップ・伊藤俊彦さん

島県から生産者のジェイラップ・伊藤俊彦さんが「原子力災害に起因する健康被害からの回避」と題して講演をおこないました。試食はりんごジュースとペコの乳ヨーグルト会津の雪。

参加者からは「風評被害は困りますが原発事故は忘れることができません。ものすごく複雑な問題だと思う」などの感想がありました。京都生協・柴田弘美副理事長(京都府生協連理事)が閉会のあいさつをおこないました。



京都生協・柴田弘美副理事長

食品と放射性物質にかんするリスクコミュニケーションは、2012年度より、消費者庁が実施している事業を活用した学習講演会として、消費者庁・京都府・京都生協・京都府生協連の4者による企画として開催。

2015年度第1回きょうと食の安心・安全意見交換会



京都府農林水産部食の安心・安全推進課・奥野裕史理事

(第3次)の最終年を迎え、次期の行動計画(2016年度・18年度)に消費者の意見を反映させることを目的に開催されました。京都府農林水産部食の安心・安全推進課・奥野裕史理事が開会のあいさつをされ、同・堀川修主事から「京都府食の安心・安全行動計画」骨子(案)について報告がありました。

京都府生協連の会員生協からは、京都生協、生協コープ自然派京都が参加、活発な意見交換がおこなわれました。NPO法人京都消費生活有資格者の会、京都府連合婦人会、新日本婦人の会京都府本部、住みよい京都をつくる婦人の会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から18人が参加しました。

京都府食の安心・安全推進条例にもとづく「京都府食の安心・安全行動計画」骨子(案)についての意見

2015年10月30日(金)、京都府生協連は、2016年度から18年度までの「京都府食の安心・安全行動計画」骨子(案)についての意見を提出しました。

意見書は、京都府生協連ホームページ「資料集・政策提言」欄に掲載しています。

京都府食の安心・安全意見交換会は、京都府食の安心・安全推進条例にもとづき、消費者である府民の意見を府の施策に反映させることを目的に、府内の消費者団体との間で毎年、開催されています。2015年10月21日(水)、京都府公館第5会議室で、京都府食の安心・安全行動計画

京ブランド認定食品
(京都吟味百撰) 試食会



(一社) 京都府食品産業協会・山本隆英会長

2015年11月17日(火)、京都プライトンホテルで開催されました。

主催は、(一社) 京都府食品産業協会、京都府生協連が協力しました。

京ブランド食品は、京都府内に本社を置く事業者によって、京都府内において製造され、食品衛生法、JAS法を遵守し安心・安全な食品であること、京ブランドにふさわしい、高品質又は伝統的な食品であり、他産地との差異化が図れるものと定義されています。

(一社) 京都府食品産業協会・山本隆英会長が開会のあいさつをおこないました。

会場には、京ブランド認定食品に参加の12の組合、47の事業者より102点の試食食品が展示されました。

生協組合員・役員は、試食しながら事業者と意見交流しました。

参加した京都府生協連・廣瀬佳代生協活動推進専門委員から「『京風〇〇』という名称のみせかけの高付加価値商品ではなく、伝統的な食品から新しい時代の『京もの』としての食品までも幅広く認定食品を、今後もずっと京都の地で育んでいけるように、大切にしていきたい」との感想がありました。

京都府生協連・柴田弘美理事が食品産業協会理事、同・川村幸子理事が認定・品質保証委員、佐々木裕司生協活動推進専門委員が認定・保証ワーキング委員に選出されています。



食品をはさんで事業者と意見交換

夏休み親子食育企画
京丹後 琴引浜 親子で磯遊
び体験ツアーを開催



京都府漁業協同組合・松尾省二さん(左端)

2015年8月11日(火)、京都府京丹後市網野町で、親子が磯遊びで自然や生き物とふれあうことを通して、「食」の大切さを知ることを目的に開催しました。

京都府漁業協同組合、京都生活協同組合、京都府生活協同組合連合会が主催し、京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会、JF京都、京都府森林組合連合会、京都府生協同組合連合会)が後援しました。

2015年7月18日(土)に全線開通したばかりの京都縦貫道を通り、京丹後市までバスで移動。到着してすぐに京都府漁業協同組合網野支所・松尾省二さんから一日漁師体

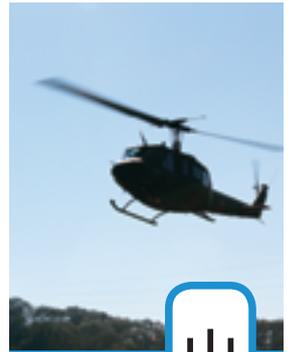
験の説明を聞きました。琴引浜へ移動し砂浜で、鳴き砂を体験。砂をこすり合わせるとキュキュツと鳴ると説明を聞き、早速挑戦しました。最初から上手に鳴らせる子もいました。

つづいて、一日漁師体験の鑑札を手首につけて、徒手採捕漁を体験しました。岩場のぞき込み、さざえやカニ、色とりどりの貝を見つけ、大事に家を持って帰りました。

次に西日本最大級の道の駅、丹後王国「食のみやこ」に移動し、丹後の農林水産物の直売所や地場産の食材を使ったレストランなどを楽しみました。

20組50人の親子の参加があり、参加した子どもたちからは「砂が鳴るなんて初めて知った」「海水を飲んだら思っていたよりしょっぱかった」「カニや貝がとれて楽しかった」などの感想がありました。





山城総合運動公園を主会場に

京都府総合防災訓練

2015年10月18日(日)、山城総合運動公園(宇治市)を主会場に開催されました。

京都府南部を震源とする震度6強の大規模地震を想定、住民避難や救援物資の輸送、土砂災害救出訓練などの訓練をおこなうことで、府民の防災意識の向上を図り、被害の減少につなげようというも



京都府・山田啓二知事と記念写真

の。今年度の防災訓練は、近畿府県合同防災訓練及び緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練(2府7県)として、10月17日(土)、18日(日)の二日間にわたって開催。京都府生協連は、18日(日)の防災訓練に参加しました。「災害時における応急対策物



JA京都グループと一緒に

資供給等に関する協定書」(1997年)を締結しており、JA京都グループとともに訓練に参加しました。京都生協洛南支部で、午前8時に京都府生協連対策本部を立上げ、京都府から要請のあった救援物資を宅配配送トラックに積み込んで、訓練会場に向かいました。



救援物資を運びます

生協から15人、JAグループから15人のボランティアが参加しました。

東日本集中豪雨への対応



ボランティア用の資機材

プ、じよれん、デッキブラシ、高圧洗浄機、土嚢袋などを送付するとともに、現地に先遣隊を派遣しました。資機材の積み込みには、京都府生協連の酒向直之事務局長が、京都府災害ボランティアセンターに加盟する団体とともに協力しました。

MCA無線(防災無線)訓練を実施

2015年7月30日(木)と、11月18日(水)に、震度6強の地震が発生したとの想定で、日本生協連関西地連、京都府生協連、京都生協、大学生協京滋・奈良ブロックのあいだで、通信訓練をおこなっていました。

2015年9月、台風18号による記録的な大雨により栃木県、茨城県、宮城県を中心に、河川の堤防決壊による広範囲での浸水被害や土砂崩れなどの被害が生じました。

京都府生協連も加盟する京都府災害ボランティアセンターは、茨城県常総市災害ボランティアセンターからの要請を受け、現地で活動するボランティア用の資機材(スコッ

発災時にMCA無線が正常に稼働できるようにするために(送受信の状態・機器の不具合の有無・電波状態・設置場所など)について検証し、一部で不具合が確認され、通信の再確認をしました。

2016年1月15日(金)には、京都府生協連会員生協内での相互連絡防災通信訓練を予定しています。

2015年度京都消費者問題 セミナー「『食べもの情報』 ウソ・ホント」開催

2015年11月12日(木)、
コープ・イン・京都で開催さ
れました。

消費者被害の事例と対策に
ついて広く啓発し、適格消費
者団体の認知をはかることを
目的に毎年開催。今年も京
府くらしの安心・安全月間事
業として実施。主催は、京
府、NPO法人コンシューマ
ーズ京都、適格消費者団体
NPO法人京都消費者契約ネ
ットワーク、適格消費者団体
NPO法人消費者支援機構
関西、京都生協、京都府生協
連で、京都市の後援事業。
テーマは「『食べもの情報』
ウソ・ホント」。



群馬大学・高橋久仁子名誉教授



消費者支援機構関西・袋井邦昭氏

京都消費者契約ネットワ
ーク・高島英弘理事長のあいさ
つのもと、「『食べもの情報』
ウソ・ホント」健康食品で健
康が買えますか？」と題して
群馬大学名誉教授、農学博士
の高橋久仁子氏による講演が
ありました。健康食品につい
ては、特定保健用食品、栄養
機能食品、4月から新たに
じまった機能性表示食品など
多種にわたり情報が氾濫する
なか、消費者はどのようなこ
とに注意して判断すればよい
のかを学びました。
つづいて消費者支援機構関
西・事務局・袋井邦昭氏と京
都消費者契約ネットワーク事
務局・志部淳之介弁護士から、
それぞれ適格消費者団体の活
動報告がありました。
コンシューマーズ京都の食

プロジェクト・有地淑羽氏か
らは、「健康食品に関する新
聞広告調査」として、6月よ
り毎日のように掲載される健
康食品に関する新聞広告につ
いて調査した結果、消費者の
視点からみえてきた問題点な
どについて、報告がありました。



京都消費者契約ネットワーク・
志部淳之介弁護士



コンシューマーズ京都の食プロジェクト・
有地淑羽氏

閉会あいさつを京都生協・
畑忠男理事長（京都府生協連
副会長理事）が、司会をコン
シューマーズ京都・あざみ祥

子理事がつとめました。
82人が参加し、参加者から
は「もう少し聞きたかった」
「表示をしっかりと見るよう
にしたい」「基本的な生活の
見直しをしてみます」など
の感想が寄せられました。



大震災と福島第一原子力発電
所の事故で大きな被害を受け
た福島県を訪問し視察とボラ
ンティア活動に取組みました。
被災地福島では、原発事故
の収束は先が見えない状況で
あり、復興と生活再建にむけ
継続した支援がもたらされて
います。震災にたいし社会の
意識がうすれていくなかで、
末永い支援を展開し復興への
一助になればという思いをも
ち実施しました。

2015年11月7日(土)に
は、京都府南丹市「STIHL
の森京都」(府民の森ひよし)
で育樹活動と木工教室・薪割
りなどの体験をし、京都労働
協会の交流と親睦を深めま
した。2つの取組には京都府
生協連から酒向直之事務局長
が参加しました。

2015年度京都労福協の 社会貢献活動

京都府生協連も会員となっ
ている京都労働者福祉協議会
(会長・橋元信一)は、社会的
役割を果たす目的で、年2回
の福祉活動を実施しています。
2015年6月19日(金)か
ら21日(日)にかけて、東日本



京都労働者福祉協議会・橋元信一会長



豊かな海は森が育む！
「浦島エコローの森づくり」
育樹活動

京都府では、海・里・山の連携による海洋環境保全の取組みとして、2001年から2005年の5年間、「浦島エコローの森づくり」育樹活動を実施し、伊根町太鼓山にもみじ、ヤマザクラ、ソメイヨシノ等の広葉樹を植樹してきました。



下草を刈りました

2015年9月13日(日)、伊根町太鼓山で植樹をした木々周辺の下草刈りが実施されました。京都府漁業協同組合主催。漁業関係者や府民122人が参加しました。京都生協から廣池孝之両丹ブロック長はじめ職員が、京都府生協連からは高取淳専務理事をはじめ事務局が、参加しました。

京都府協同組合
職員体験・交流学校 開催

2015年9月8日(火)～9日(水)に開催されました。今年で15回目を迎える協同組合職員体験・交流学校は京都府の協同組合(農協、漁協、森林組合、生協)に働く職員の教育と育成を目的とし、



J A 京都「たわわ朝霧」・茨木儀一店長

研修・体験交流を通して京都の協同組合の連携、課題を学び、認識を深め合う目的で、毎年開催されています。今年の研修テーマは「京都の農産物の生産・流通を学ぶ」。J A 京都中央会が企画を担当されました。J A 京都「たわわ朝霧」で開校。J A 京都中央会・藤本伸幸理事が開校のあいさつをされ、J A 京都中央会総合企画部・中川和弘部長より研修内容のオリエンテーションがありました。J A 京都「たわわ朝霧」・茨木儀一店長から農産物直売所についての説明があり、その後、店舗の視察をしました。



生産農家・長澤忠夫さん

2日目は雪印メグミルク株式会社で、畜産酪農事業に係る情勢と課題等について、全農農畜産部・中井剛次長からのお話のあと、雪印メグミルク株式会社京都工場・川越重寛工場長から、京都工場の施設概要について学び、工場見学をしました。

つきに会場を移動し、「たわわ朝霧」に農産物を出荷している、水耕栽培での生産農家の長澤忠夫さんから「生産者の声を聞く」をテーマにしたお話を聞き、ビニールハウス内での水耕栽培の圃場見学をしました。

参加者は29人でした。参加者からは「協同組合で働いていることを改めて実感することができた」「普段関わることがない人たちと交流ができ、各協同組合について理解



雪印メグミルク株式会社京都工場・川越重寛工場長

できた。」「各協同組合との交流を深める貴重な機会だと思った。」などの感想がありました。



熱心に聞く参加者

第27回近畿地区生協・
行政合同会議



社会福祉法人・協同福祉会・
村城正理事長

2015年8月31日(月)、
御所西 京都平安ホテルで、「安心してくらせる地域社会づくりをめざして」をテーマに開催されました。福井・滋賀・奈良・和歌山・大阪・兵庫、京都の生協担当主管部局、および各生協府県連の役員ら43人が出席しました。京都府が当番県。
京都府生協連・上掛利博会長理事が司会を担当。主催者を代表して、兵庫県生協連(近畿地区生協府県連協議会代表)・本田英一会長理事から、「この会議の目的は地域住民の安全・安心な暮らしを支えるために、生協と行政との協力関係を深めることにある。行政と生協が一堂に会して活動の交流と連携によって、地域の社会貢献につながれば、非常に有意義な会議である」とあいさつがありました。
開催地を代表して、京都府府民生活部・西川定彦部長からは、

「会議の成果や、生協と行政のパートナーシップが地域創生実現の一助となることを期待している。生協と行政が連携し、よりよい社会の実現を一緒にめざしていきたい」とあいさつがありました。

厚生労働省社会・援護局・地域福祉課・消費生活協同組合業務室・佐藤潤室長から、「生協が時代の要請に的確にこたえていけるよう地方自治体と協力し生協行政を適切にすすめている。各自自治体においても生協を心から理解していただき、こんごも適切に育成していただきたい」とあいさつがありました。

日本生協連渉外広報本部渉外部・松本圭司部長が、「2014年度全国の生協の社会的取組みと2015年度の重点課題」について紹介しました。

社会福祉法人・協同福祉会・村城正理事長が「新しい地域支



(左から)西川部長、本田会長理事、佐藤室長

援事業と生協への期待(これからの地域に何が求められているか)をテーマに特別報告。

社会福祉法人・大阪市社会福祉協議会・大阪市ボランティア・市民活動センター、奈良県生協連、京都府食の安心・安全推進課、NPO法人京都消費者契約ネットワーク、NPO法人消費者支援機構関西から活動報告があり、意見交換しました。

京都府府民生活部との懇談会

2015年8月5日(水)、
京都府庁福利厚生センターで開催しました。

京都府からは府民生活部・西川定彦部長、福田伸也消費生活安全センター長、竹田厚子副センター長、広瀬久美子副課長、藤沢智美副課長、佐竹由行副主査が出席しました。

京都府生協連からは上掛利博会長理事、畑忠男副会長理事(京都生協理事)、高取淳専務理事、小林和美生協活動推進専門委員(大学生協京滋・奈良プロジェクト事務局)のほか、事務局が出席しました。

京都府から「京都府の消費生活行政について」報告があり、生協からは2015年度活動重点課題について報告しました。消費者施策における行政と生協の提携の可能性が提起され、意見交換しました。

京都府 生協 理事長懇談会



NPO法人気候ネットワーク・
伊与田昌慶研究員

2015年9月15日(火)、
コープ・イン・京都で開催しました。高取淳専務理事が司会進行し、上掛利博会長理事が開会あいさつ。

NPO法人気候ネットワーク・伊与田昌慶研究員(COP21NGO公式代表)から「COP21(気候変動枠組条約第21回締結国会議)に向けて、気候変動対策の新しい枠組みについて」をテーマに講演をいただきました。伊与田研究員は、最近の異常気象などの地球温暖化の現状をふまえたうえで、京都議定書の意義とCOP21で合意を目指している新しい枠組み(パリ合意)について、説明されました。また、日本の温暖化対策として、持続可能なエネルギー社会のため、省エネの強化と再エネの普及拡大に取り組む必要があることなどを話されました。

その後、各会員生協から2015年度の活動課題等について報告があり、意見交換をおこないました。12会員生協から理事長・副理事長・専務理事17人が出席しました。

京都の生協活動功労者表彰式

2015年11月11日(水)、
せいきょう会館で開催しました。

京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなっているもので、表彰の対象となった方は、2014年8月1日から2015年7月31日までのあいだに退任した役員のうち、①役員在任期間が2期以上または4年以上あった方、②特別に功労があったと認められる方、です。

2015年は各会員生協から15人が推薦され、表彰されました。上掛利博会長理事が表彰式を贈りました。表彰式に出席された功労者は4人でした。表彰式には、該当する会員生協役員が出席しました。



功労者のみなさんと記念写真

京都府生協連 監事研修会



京都府生協連・石井聡監事

2015年9月3日(木)、せいきょう会館で開催しました。

京都府生協連・石井聡監事(京都生協常勤監事)を講師に迎え、テーマは「監事監査の基本とポイント」。石井監事は監事監査の目的と基本事項、監事監査の全体像などについて、講演されました。会員生協から8人が参加しました。

参加者からは「具体的な説明があり、大変有意義だった」「大切な事なので、今後、年に1回くらいは開催して欲しい」などの感想がありました。

産直シンポジウム

2015年10月17日(土)、鳥取で「COOP牛乳産直交流協会設立25周年 2015産直シンポジウム」が開催。テーマは「これまでの産直を振り返りながら、次世代へつなぐ産直を

『協同組合間協同で創る、食と農と暮らし』。京都府生協連・右近裕子生協活動推進専門委員が参加しました。

福井県立大学・北川太一教授が「これからの農畜産業・地域社会のあり方と協同組合間協同の役割―一人ひとりを大切に―」をテーマに基調講演をされました。

大山乳業農業協同組合からは、近年の酪農家の減少を経営規模の拡大でおぎなってきたが、徐々にそれがおいつかなくなり、生産量が減少傾向にあるという報告がありました。

右近委員から「COOP牛乳産直交流協会に集う組織間の協力体制と新たな施策の必要性を強く感じた」との感想がありました。

第2回環境・エネルギー部会

2015年11月18日(水)、第2回環境・エネルギー部会を開催しました。部会では学習や交流を中心に、環境や省エネの活動が広がることをめざしています。

部会には、京都生協、生協生活クラブ京都エル・コープ、生協コープ自然派京都、大学生協京都事業連合、京都府生協連で構成。アドバイザーとして京都府地球温暖化防止活動推進センター

の木原浩貴事務局長に協力をお願いしています。

欧州を視察された木原事務局長から「調査報告―欧州の低炭素型地域づくり―」と題して活動の紹介をいただきました。

第1回地域支援事業推進チーム会議

2015年10月8日(木)、

第1回地域支援事業推進チーム会議を開催しました。推進チームでは、介護保険改定による総合支援事業づくりに向けた学習や活動交流、関係団体との懇談などを進めています。第1回会議では、京都府健康福祉部高齢者支援課・古川元史副課長より、介護保険制度について報告をいただきました。学習を深めました。

推進チームは、やましろ健康医療生協、乙訓医療生協、京都高齢者生協くらしコープ、生協生活クラブ京都エル・コープ、生協コープ自然派京都、京都生協、京都府生協連で構成。



京都府健康福祉部高齢者支援課・古川元史副課長

第46回京都消費者大会 「COOP21を前に地球温暖化問題をくらしの視点でとらえる」開催



気象予報士・キャスター・虫鹿里佳氏

2015年11月19日(木)、ハートピア京都において開催されました。主催は当会が加盟しているNPO法人コンシューマーズ京都。環境省近畿地方環境事務所、京都府、京都市、京都府地球温暖化防止活動推進センターが後援。

「温暖化と私たちの生活―未来はどうなる?」と題して気象予報士・キャスター・虫鹿里佳氏より、気温の上昇と温暖化により私たちの日常生活にどのような影響が出ているのか、グラフデータ、クイズを交えてわかりやすくお話いただきました。

次に龍谷大学経済学部・増田啓子教授が「京都で見える温暖化の実態―サクラ・カエデ調査からわかること」と題して、京都府内で実施された調査の報告を中心に講演されました。調査結果の成果が表れるのは数年先

だが、今後も環境の変化を追っていくうえで非常に重要であること、温暖化防止に努力しながら、環境の変化に適切していく能力を身につけることも大切であると述べられました。

つづいて、京都生協「Let's省エネチャレンジ!!」参加者の高橋榮子さんからの報告と、NPO法人気候ネットワーク・伊与田昌慶研究員(COP21NGO公式代表)から、パリでおこなわれるCOP21に向けての決意表明と、アースパレードへの参加呼びかけがありました。COP21では、2050年頃に影響をうける世代が現在の取組みの話し合いに参加できていない現実について、若い世代が自分自身のこととして取り組むべきであると強調されました。

最後は映画「シエーナウの想い―自然エネルギー社会を子どもたちに―」が上映され閉会となりました。100人の参加がありました。



龍谷大学経済学部・増田啓子教授

京都府生協連 第17回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ これからの生協の役割と課題を考える

2015年10月20日(火)、
せいきょう会館で開催。会員
生協の役員30人が参加しま
した。

消費者・組合員の生活は多
様化し、少子高齢化にともな
う人口の減少も進むなか、こ
の京都の地において、生協がど
のような役割を発揮し続ける
のか、考えあいました。

京都府生協連・上掛利博会
長理事から開会のあいさつが
あり、高取淳専務理事がコー
ディネーターをつとめました。

日本生協連・和田寿昭専務
理事が「日生協・第12次全国
中期計画の到達と2020年
ビジョン第2期中期方針の策
定に向けて」をテーマに講演
され、検討が進められている
「2020年ビジョン第2期中
期方針」では、「それぞれの地
域で過半数世帯の参加をめざ
す」「生涯を通じて利用できる
事業・サービスの確立」「地域
社会づくりへの参加」がこれ
からの課題であるとの報告が



日本生協連・
和田寿昭専務理事

ありました。
会員生協からは、京都生協・
畑忠男理事長より、「第9次
中期計画(案)」について、
2030年を見据えた発想で
検討しているとの報告があり
ました。



京都生協・
畑忠男理事長

京大生協・中島達弥専務理
事からは、2015年度から
取組みを開始した、「経営改善
のための中期計画」の重点課
題や進捗についての報告があり
ました。



京大生協・
中島達弥専務理事

参加者からは、「生協が持つ
多くの課題を改めて認識でき
た」「これからの中期計画づく
りの参考になった」との感想が
出されました。また、地域の
役割発揮の関係では、生協間
の連携をさらに強化できたら
という意見も出されました。

おもな行事のお知らせ

第18回京都の生協活動を豊かに
発展させる協議会(KSSK)

日 時：2016年1月19日(土)

会 場：コープ御所南ビル4階
会議室

テーマ：「これからの職員組織を
考える」(仮)

2015年度きょうと食の安心
安全フォーラム

日 時：2016年1月30日(土)

会 場：京都JA会館501
会議室

京都発！

「食とみどりのサイエンスNOW」

日 時：2016年2月20日(土)

会 場：京都府立植物園

京都府災害ボランティアセンター
10周年記念シンポジウム

日 時：2016年1月23日(土)

会 場：京都文化博物館
別館ホール

事務所移転のお知らせ

このたび、左記に移転いたしました。電話番号・FAX番号は変
更ありません。

〒604-0857

京都市中京区烏丸通二条上る時絵屋町258番地 コープ御所南ビル4階
京都府生活協同組合連合会

謹賀新年

旧年中はご支援・ご協力を賜り、ありがとうございました
本年も、みなさま方とこいつしよに、食の安全・くらしの
安心をめざし、邁進してまいりたいと存じます
どうぞよろしくお願ひ申し上げます

二〇一六年 一月一日

京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛利博



CO-OP

発行 京都府生活協同組合連合会 〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上る時絵屋町258番地 コープ御所南ビル4階
TEL 075(259)1501
URL http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp